

令和7年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立上水高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(総務部主任)＝事務局長 1名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主任教諭(生活指導担当)、
主幹教諭(進路指導担当) 計6名
- (4) 協議委員の構成
国立音楽大学教授、武蔵村山市立小中一貫校村山学園統括校長、東大和警察署生活安全課少年第1
係係長、北多摩西部消防署警防課防災安全係地域防災担当係長、武蔵村山大南四郵便局長、上水台
自治会長、本校PTA会長、本校同窓会会長 計8名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
第1回 令和7年6月18日（水曜）内部委員6名、協議委員7名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題、本校の現状と課題等説明、意見交換
第2回 令和7年11月12日（水曜）内部委員6名、協議委員5名
学校評価の内容検討、令和7年度学校評価アンケートの質問項目について、協議
本校の教育活動についての報告、協議委員からの教育活動に対する意見、協議
第3回 令和8年2月4日（水曜）内部委員6名、協議委員6名
学校評価の分析・報告及び学校運営に関する提言、協議
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
第1回 令和7年6月18日（水曜）内部委員3名、協議委員2名
前年度の学校評価の振り返り、今年度の学校評価の方向性の検討、実施時期の検討
第2回 令和7年11月4日（火曜）内部委員3名、協議委員2名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、具体的な実施時期の検討
第3回 令和8年2月4日（水曜）内部委員3名、協議委員2名
今年度の学校評価の結果について、報告書の内容の確認

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・11月 全校生徒 対象：708人 回収：698人 回収率：98.5%
 - ・11月 保護者全員 対象：708人 回収：313人 回収率：44.2%
 - ・12月 地域・住民 対象：26人 回収：26人 回収率：100%
 - ・11月 教職員 対象：47人 回収：47人 回収率：100%○保護者アンケートの実施方法を変えたこともあり、保護者の回収率が前年度より低下した。
- (3) 主な評価項目
 - ・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、国際理解教育、特別活動・部活動、施設・設備、いじめ防止、ライフワークバランスの推進などを得点化する。
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
 - ・次の7項目の評価得点が高かった。
 - ◎上水高校の先生は質問に丁寧に答えてくれる。◎校則を理解して実行している。◎上水高校の先生は進路について相談によく応じてくれる。◎学校はいじめ防止・実態把握に対して適切な取り組みをしている。◎学校行事は充実している。◎部活動は活発に行われている。◎学校生活に満足している。この中でも、部活動と学校行事に関する項目はとても高い評価であった。
 - ・次の1項目は評価得点が低かった。
 - 施設（教室・特別教室・体育施設等）は整備されている。
- (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言内容）
 - ・昨年度との比較 生徒、保護者、教職員の評価得点の合計を昨年度と比較すると、生徒+263、保

護者-28、教職員+262 となり、保護者の評価は少し下がったが、評価得点の合計は上がっており、合計は+497 となる。よって昨年度よりもよい評価結果が得られている。

・自由記述について

生徒、保護者、教職員から 159 の記述回答をいただいた。それらの内容を 30 のカテゴリーに分類し、回答数の結果を集計した結果、学校生活全般の回答数が圧倒的に多かった。その内容としては「充実している」、「入学して良かった」、「学校生活に満足している」の回答が全体の 96.0%であった。他の項目には厳しい意見もあるが、生徒、保護者ともに概ね学校生活に満足していることがわかる。課題としては、①授業改善と教科指導、②行事の日程、③丁寧な進路指導、④パン販売等の購買関係、⑤部活動における諸問題、⑥老朽化している一部の設備の改善などが具体的な課題として挙げられていた。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

・評価結果から、教科指導、購買関係、学校施設の改善を図っていく必要があることがわかった。考えさせる授業を展開しながら国際理解につなげるなど、今後も更に工夫が必要である。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

・協議委員や地域の意見から、今後も学校の教育活動を、様々な機会が発信していく必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

・常に学校の教育方針を生徒・保護者に対して説明し理解を得る。そして積極的に保護者、地域と連携しながら、学校教育の充実を図っていく。

(2) 学習指導

・生徒による授業評価や定期考査の結果等を踏まえて、授業改善の取り組みを強化する。

(3) 特別活動

・部活動のさらなる充実を図り、安全や人権に配慮しつつ、学習・学校行事と両立する環境を整える。

(4) 生活指導

・生徒が安全に学校生活を送れる環境の整備を継続し、時間・規則の順守、身だしなみ指導、持ち物の管理などを徹底する。また、登下校でのマナーについても引き続き指導を徹底する。

(5) 進路指導

・進路多様校として生徒それぞれが自分の目標を達成できるよう指導をさらに充実させることが課題である。また、三者面談や保護者への情報提供などを通して、保護者との連携をより強化する。

(6) 健康・安全

・健康診断の結果などを生かし生徒の健康を図る。いじめ防止の適切な指導の継続や教育相談活動のより一層の充実を図る。また、自転車通学の生徒に対して新しい交通ルールの徹底、ヘルメット着用の安全指導もさらに強化する。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数（確定後記入）

そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
7	1					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人

【成果】会議等では参加していないために特になし。地域防災訓練においては、今後もさらに連携をしていく必要があると考える。

8 その他

・地域でのアンケート実施に際しては、地域連携等の様々な機会を活用し、学校の教育内容等を周知する必要がある。文化祭や授業公開では、地域の参加者が増加傾向にあるので、アンケート対象者を検討する必要もあると考える。